

資料1

偏向した統覚

p.137 (横山さん担当)

アドラーは、人が原型を作った 後の 選択の プロセス を偏向した統覚と呼んでいる。

Adler has called *the process of selection after persons have built their prototypes, tendentious apperception.*

人は環境からこの「絵」にあてはまるものだけを取り出し、それ以外のものは全て消えてしまう。

p.138

偏向した統覚は人々の発言や聞き間違い、物事全ての解釈の仕方に見て取ることができる。これは現実とは何の関係もないが、彼らの原型とパターンには合致する。偏向した統覚は様々な状況で繰り返される。なぜなら人は現実ではなく、彼らの動きが目指している、予め持っていた原型に向いているからである。人はそれぞれ、子どもの頃に自分が生まれてきた現実全体から小さな切片を切り取って、今やその中で動こうとするのである。

原型・プロトタイプ

p.132 (栗飯原さん担当)

Prototype とは、人が自分自身を形成しようとする姿や概念のことです。

A prototype is a figure or a concept according to which people try to mold themselves.

それは、その人の目の前にある何かであり、その人が価値があると思う何かです。

It is something that is in front of them, something that they consider worthwhile to be like.

資料2

なぜ6歳？

pp.130-131 の資料 (野田) Pattern of Life の形成と固定より

1) **Individual Psychology: Theory and Practice.** Guy Manaster, Raymond Corsini, 1982.
アドラー派の「事実」の一つは、ライフスタイルは 4歳から6歳の間に固定するということ。 「子供が 5歳になる頃には、彼の環境に対する態度は通常固定され、機械的になっており、その後の人生でもほぼ同じ方向に進みます。彼の外界への認知は同じままです」 (Adler, 1956, IPAA p.189)。

2) **Fundamentals of Adlerian Psychology.** Rudolf Dreikurs, 1953.

すべての個人が 4歳から6歳までには明確な性格を発展させ、4歳から6歳以降に性格を根本的に変えることが、心理療法を通じた外部の援助なしではほぼ不可能

3) **Basic Applications of Adlerian Psychology for Self-Understanding and Human**

Relationships. Outlines of a course. Edith A. Dewey, 1978.

ライフスタイルは4歳から7歳（アドレリアンによって意見が分かれる）の間に発達する。

- 就学前：概念形成 簡単に変化する
- 就学期：体験によって変わり得る
- 思春期：感情隠蔽、自己欺瞞、「マスクをつける」ことを覚える 信念が保持される
- 成人期：ライフスタイルは固定され、通常は心理療法によってのみ変化する

2023年4月13日のディスカッション：

Pattern of Life は4～6歳で固定するのかもしれない

Style of Life（手段・方法まで含める）は10歳ごろまでかかるのかもしれないという話になりました。

ジッヒャー説：どちらも6歳で決定し、それ以後に目標を具体化していく

まず目標が決まり、それから相対的マイナス（劣等感）が生じるという考え方（ヨーロッパのアドレリアンは、劣等感が先と考える）

資料3

pp.320-321 “Fear”

Fear of Life

The fear that has so many faces is the fear of death. But people are not as afraid of death as they are of psychologically losing self-esteem, prestige, face: a fear of life. Many persons have the idea that if they lose face (what they think makes them meaningful in the eyes of others) everything would end. But the fear that is connected to survival is a physical fear. …… This fear of others' impressions is a psychological fear, an anxiety, and does not exist in physical reality.

多くの顔を持つ恐怖とは、死に対する恐怖である。しかし、人が死を恐れるのは、心理的に自尊心や名声、面目を失うこと、つまり 生きること の恐怖ほどではない。多くの人は、もし自分が面目（他人の目から見て自分を意味のある存在にしていると思うもの）を失えば、すべてが終わってしまうという考えを持っている。しかし、生存につながる恐怖は肉体的な恐怖である。（中略）この他人の印象に対する恐怖は心理的な恐怖、不安であり、物理的な現実には存在しない。

基礎講座より

三つの目標

- 1) 生物学的目標 ← 自己保存・種族保存
- 2) 社会学的目標 ← 所属
- 3) 心理学的目標 ← 個人のライフスタイル

ジッヒャー

- 1) Security (physical survival)
- 2) Psychological security

目標 = Security (Physical Survival)

具体化された目標 = Psychological Security